

第2次沼津市地域公共交通計画の策定について

資料 2

1. 計画策定の背景

本市の公共交通は、鉄道、バス、タクシーにより、概ね市内全体の交通ネットワークが確保されているものの、自家用車の依存度が高く公共交通の利用者は減少している。

このような中、令和2年3月に将来の都市像を実現しつつ地域公共交通ネットワークを形成し、地域公共交通の確保・維持・改善を図るため『沼津市地域公共交通計画』を策定した。

現計画が令和7年度末に終了することから、これまでの取り組みの結果や現在の課題について関係者で協議した内容を踏まえ、公共交通のあるべき姿について『第2次沼津市地域公共交通計画』を策定する。

《計画期間》

令和8年度～令和12年度の5年間とする。

《計画区域》

沼津市全域を対象とする。



2. 『1次計画』の各施策の実施状況、目標の達成状況

〈基本方針〉

「行きたいまち、住みたいまち。」

～公共交通の改善により、選ばれるまちへ～

〈計画区域〉

沼津市全域

〈計画目標〉

計画目標1 おでかけの手段として選ばれる公共交通

計画目標2 市民とともに支え育む公共交通

計画目標3 まちのにぎわいをサポートする公共交通

〈計画期間〉

令和２年度～令和７年度（６年間）

〈各施策の実施状況〉

プロジェクト		実施状況（実施数/全数）	
	施策数	実施	未実施
I 公共交通軸形成プロジェクト	6 施策	6/6	
II 公共交通セーフティネット構築プロジェクト	4施策	4/4	
III わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト	10施策	10/10	
IV 楽しいおでかけ創出プロジェクト	4施策	3/4	1/4
V 沼津駅・沼津港連携プロジェクト	5施策	5/5	
VI いつでも安心・安全プロジェクト	2施策	1/2	1/2
全 体	31施策	29/31	2/31
全施策に対する実施状況の達成率		94%	6%

〈目標の達成状況〉

評価指標	目標値	実績値
①市民一人あたりの公共交通利用回数	88回/年	79回/年 (令和６年度)
『未達成』コロナ禍により一時的に利用者数が落ち込んだが、 <u>回復の傾向がみられる。</u>		
②市民一人あたりのまちなかへの来訪回数	42回/年	37回/年 (令和７年度)
『未達成』公共交通の改善だけでなく、 <u>まち全体の活性化施策と連携が不可欠</u> である。		
③路線バス運行に係る収支差額	△430,000千円以内	△321,823千円 (令和６年度)
『達成』運賃改定や路線の効率化等により、 <u>一定の改善がみられる。</u>		

3. 課題と問題点

○課題1：公共交通軸の

サービス水準の維持・向上

～公共交通ネットワークの基幹軸が明確でなく、計画的な運行水準の確保につがっていない～

○課題2：公共交通による

おでかけの足の確保

～日常生活に必要な移動手段が限られ、移動に不便を感じる地域が生じつつある～

○課題3：公共交通の利用環境向上

～沼津駅や沼津港などのターミナルの利用環境の整備は進められているが、郊外部では課題が残る～

○課題4：新たなおでかけ機会の創出

～公共交通の利用者が年々減少している～

○課題5：いつでも安心・安全

～自然災害や危機事象発生時への準備、対応が十分でない～

4. 『2次計画』の基本方針と目標、プロジェクト

〈基本方針〉

『住みたいまち、行きたいまち。』 ～公共交通の改善により、選ばれるまちへ～

目指す方向性 … 交通事業者間の協調によって築かれた連携の強みを活かし、弱みを改善することにより、いつでもどこでも誰でも安心して利用できる使いやすい公共交通を維持・確保し、住みやすく訪れたいまちを目指します。

強み…東西に鉄道軸（東海道本線、御殿場線と4駅（沼津、片浜、原、大岡））が横断
公共交通 … バス事業者3社協調による沼津駅を起点とした拠点間ネットワークが整備
市内タクシー事業者10社により市内全域が網羅
弱み…利用しやすい公共交通に向けた横断的な取組が限定的である
路線バスの継続的な運行が困難となることが見込まれる

目標1

都市の核となる公共交通軸のサービス水準を維持・向上し、便利な公共交通を守る

中心市街地の移動手段として運行している路線バス（市内幹線、市内準幹線）の維持・支援、乗務員確保に向けた取組等を実施し、質の高いサービスを提供する。

目標2

地域住民の生活を支える交通手段を確保し、身近で頼れる移動手段の選択肢を広げる

市郊外部の公共交通サービスが十分に行き届きにくい地域に対し、各地域の特性に根差した柔軟な外出支援の仕組みを検討するため、様々な地域資源を活用するとともに、誰もが利用しやすい移動サービスを提供する。

目標3

安心しておでかけに利用できる環境を整備し、公共交通の利用拡大を目指す

利用環境の向上や、利用促進策の実施により、市民や来訪者が公共交通への関心や親しみを深めることで、より多くの人々に選ばれ利用される公共交通を目指す。

プロジェクト及び施策内容

プロジェクト	施策内容	新規/継続
公共交通軸のサービス水準の維持・向上プロジェクト	バス路線の維持・支援	
	I-① 公共交通軸の維持・向上	(新規)
	路線の再編・集約	(継続)
	運行頻度・時間帯の確保	(継続)
公共交通によるおでかけの足の確保プロジェクト	I-② 乗務員確保に向けた対策	(継続)
	II-① 自主運行バス等の路線再編・集約と運行維持に係るルール作り	(継続)
	II-② 地域主体による外出支援体制の構築に向けた施策パッケージの提供	(新規)
公共交通の利用環境向上プロジェクト	II-③ 利用者や環境に配慮したバリアフリー車両などの導入推進	(継続)
	バス停の環境改善	
	III-① バス停の案内表示、デザインの統一	(継続)
	バス停周辺の環境改善	(継続)
	バス停位置等の見直し・改善	(継続)
新たなおでかけ機会の創出プロジェクト	III-② 運行情報のデータ化と活用	(継続)
	III-③ 分野横断による交通案内の体制の整備	(継続)
	IV-① 利用しやすい運賃体系の見直し	(継続)
	交通案内情報の充実	
	IV-② 路線図・時刻表の作成	(継続)
いつでも安心・安全プロジェクト	アプリ等を活用した交通サービスの提供	(継続)
	IV-③ 高齢者向けバスツアー、セミナーの開催	(継続)
	IV-④ 新たなモビリティツールの活用	(継続)
	V-① 災害発生時の運行継続のための仕組みづくり	(継続)

5. 評価指標

アウトプット指標
（個別指標）

各プロジェクトに対応した活動結果

指標(1)
公共交通軸のサービス水準の維持の達成率
目標値：100%

指標(2)
主要拠点間を結ぶ公共交通ネットワーク維持率
目標値：100%

指標(3)
事業の実施状況（実施の有無、内容）
目標値：100%

アウトカム指標
（全体指標）

アウトプットによりもたらされる全体的な効果

指標①
市民一人あたりの公共交通利用回数
現況値：79回/年
(令和6年度)
目標値：85回/年

指標②
市民一人あたりのまちなかへの来訪回数
現況地：37回/年
(令和7年度)
目標値：39回/年

指標③
路線バス運行に係る収支差額
現況値：△321,823千円
(令和6年度)
目標値：△321,000千円以内